

がんの悩み 患者と医師で話し合いませんか

医師とがん患者らが対談して、がんにまつわる悩みを解消する「がん哲学外来」や「メディカル・カフェ」が全国に広がっている。県内でも3カ所で開催されており、がんについて考え、生き方を見直す場となっている。

がん哲学外来は、順天堂大学医学部の樋野眞夫教授が提唱し、2008年1月に同大医学部付属医院に開設された。治療の一方で、見過ごされがちな患者の気持ちや考えへの配慮の必要性を感じた樋野教授が企画した。

医療者とがん患者・家族が30～60分間、面談して人生観やがんに対する姿勢を考え、治療の妨げになるような悩みの解消をめざす。医療者は悩みを聞き、支えになる言葉や人生を考える手がかりになる言葉を伝える。

もう一つのメディカル・カフェは哲学外来のグループ版。医療者と複数の患者・家族が同じテーブルを囲んで対話するものだ。樋野教授が普及を進めた結果、外来とカフェは合わせて約140カ所に増えている。

ホスピスでボランティア活動を行う民間団体「福岡ホスピスの会」（福岡市中央区）は16年5月、がん哲学外来「ぬくみカフェ」を始めた。参加者は20～30人で、四つのテーブルに分かれて不安や

哲学外来やカフェ 県内3カ所で

悩みなどを話す。医療者やボランティアが同席し、くつろいで話せるようにお茶を入れ、卓上に花を飾る。悩みを吐露しあうことで「苦しいのは自分だけじゃない」と前向きな気持ちになれるという。希望する人は別室で個別に医療者と話すこともできる。

会代表の柴田須磨子さんは「話せば楽になることもある。お茶を飲みながらお話しませんか」と参加を呼びかける。開催は2カ月に1回で、次回は5月26日午後2時、福岡市中央区のサンパウロ福岡宣教センター3階。会場費として500円。問い合わせは柴田さん（090・1162・6395）へ。

また、医療用ウィッグのスヴェンソン福岡サロン（同市博多区、092・477・8733）が、がん哲学外来「明太メディカルカフェ」を3カ月に1回開催。そうこう薬局天神中央店（同市中央区、092・734・7311）は毎月第1土曜に「がん対話カフェ」を開いている。